



群青小高  
Artist In Residence  
in Minamisoma  
Gunjo ODAKA  
図録  
2022



Artist In Residence  
in Minamisoma

Gunjo ODAKA

## 目次

### Contents

趣旨・概要	2
市民サポーター	3
招へいアーティスト - 滞在制作を経て -	
新藤 早代氏	4
橋本 旭広氏	6
篠塚 聖哉氏	8
田中永峰良佑氏	10
おわりに	12

### 趣旨

#### Purpose

南相馬市文化芸術 ふれあい事業  
アーティストインレジデンスみなみそうま  
「群青小高」2022について

南相馬市は、文化芸術ふれあい事業「アーティストインレジデンスみなみそうま『群青小高』2022」を開催しました。アーティストインレジデンス(AIR)とは、招へいされた芸術家が一定期間ある土地に滞在し、作品制作やリサーチ活動を行う事業です。地域住民が主体的に芸術文化活動に関わる環境づくりを促進し、交流人口拡大、地域活性化につなげる取組として、地域が本来持ち得ている魅力をアートの視点から引き出すことを目的としています。

人は日常に埋もれると見慣れた景色を見飽きてしまうものですが、市外から来たアーティストが南相馬市を新鮮に感じ、南相馬の地でインスピアイアされた作品を制作することで、地域住民に自分の街を再認識していただくことも期待しました。2回目のAIRなので事業のマンネリ化を危惧しましたが、アーティストと地域住民が協力して地域の文化資源を掘り起こしてくれることを信じ、昨年度に引き続き小高区で実施しました。

AIR実施に際し、アートサポーターとして小高区在住3名の方にご協力いただき、アーティスト滞在中のサポートや地域住民との接点をつくるなど、担当職員とともに企画、招へいアーティストの選定など運営を行いました。

### 概要

#### Overview

南相馬市文化芸術 ふれあい事業  
アーティストインレジデンスみなみそうま  
「群青小高」2022の制作条件

南相馬市は、アーティストへの滞在支援金(交通費、滞在制作に係る原材料費を含む。)と宿泊場所(小高区)を負担し、オンライン(SNS等)による作品、ワークインプログレス(制作過程)の発表機会を提供しました。事業実施期間は、令和4(2022)年8月～10月の間で最短10泊11日(最長13泊14日まで延長可)とし、4名のアーティストはそれぞれ2週間ほど滞在予定を組み、滞在日後半には作品の展示やワークショップ等も行いました。

### 招へいアーティスト選考について

南相馬市のwebサイト、「群青小高」特設webサイトにて参加者を募集し、9名からご応募いただきました。応募動機やポートフォリオなどをもとに、小高区への興味関心、テーマ設定など、事業全体のバランスと「新たな視点」を重視し選考しました。募集要項を踏まえ、上記理由により4名のアーティストを招へいしました。



## 市民サポーター

Supporter

## 瀬下智美

Tomomi Seshimo

令和4年度から小高伝道所(小高教会幼稚園)に牧師が常駐、連絡がつき、成果発表展会場の一つとしてご協力頂いた。震災後休園となった小高教会幼稚園は、解体・更地にすることがほぼ決定していた。しかし、この第2回のAIRが大きな転換点となった。幼稚園ゆかりの人々が結集し、現在、礼拝堂と園舎を保存・活用することで動いている。アートと、そこに引き寄せられる人々との間に生ずるミラクルに立ち会った。また、小高に来て下さい。

## 森山貴士

Takashi Moriyama

2週間という短い滞在期間の中、未知の場所でテーマと切り口を見出して何かを生み出すことは容易ではないと思います。アーティストの方が迷いながら向き合い続ける過程をみてきましたが、この地にいるわたしたちも「地域」について考え、実装し続けていくことが大事なのかも、と感じました。今回の作品が、その作品が持つ以上の広がりをもたらされるようにしたいと思います。

## 西山里佳

Rika Nishiyama

2回目となる今回は前回とはアプローチも表現方法も違うアーティストの方々にお越しいただき、群青小高の深みが生まれる予感がしました。小高に暮らすわたしも、初めて出会うような場所の表情や、人の機微を垣間見ることができ、懐かしく新鮮な小高を見せていただき、アーティストのみなさんには本当に感謝しています。もっと多くの方々に、そのような体験をしてもらえるように、今後も実施できればと思います。



「触覚」(会場:小高教会幼稚園 昇降口) / 2022年9月6日・7日



## Artist

**新藤早代 氏**  
Sayo Shindo



「なにを頼りに見つめていいか」、小高での滞在制作はそればかり考えていました。贅沢な、それでいて正しい心のざわめきだったと思います。

街と対話するには短い2週間の滞在でしたが、この街の隙間は、不在であり、不在でしかない、そんな強さが好きな街でした。そう思うことができる環境を作っていただいた小高の皆さんと、南相馬市に大変感謝しております。

そんな街でフラフラと、私が滞在していた時期にたくさん小高に飛んでいた揚羽蝶のように過ごす中で、自分自身が一番落ち着

く場所が小高教会幼稚園でした。閉園してから11年間、震災当時のまま残された幼稚園。備品の数々は一見寂しそうに見えますが、そこに在ることに誇りを持っている、そんな強さを感じました。

夜、誰もいない幼稚園で撮影をしたり展示の準備をすることがありましたが、夜中に自家のキッチンの換気扇の下で煙草を吸っている時のような、不思議な心の落ち着きがありました。

小高に住む皆さんや、牧師である飯島さんの想いが詰まっている場所だからこそ、私自身が訪れた時にそう思ったのだろうと、教会

幼稚園で展示をさせていただいて直感的にわかりました。

大切な感覚をいただいたこの街のことを、自分なりにもう少し解釈していきたいと思っています。

写真家・青山裕企に師事。人物のポートレートを中心に、写真と映像の活動をしている。2018年にユカイハンズパブリッシングから写真集『視線』を出版。撮影に、映画『アボカドの固さ』(2020年)、折坂悠太「星屑」のミュージックビデオ(2021年)など。





ライブ「アリモノ」(会場:JR小高駅 フリースペース)／2022年9月7日

## Artist

### 橋本旭広氏

Akihiro Hashimoto



1999年2月1日生まれ。大学時、軽音部でビートルズなどのコピーバンドをする。大学卒業後、ギターでの弾き語り形式で宅録を行う。2021年3月より東京にてバンド「アップリケ」を結成。また、弾き語りでの音楽活動も行っている。今回参加した第二回「群青小高」では二週間の滞在期間で作詞作曲したものを含めたライブ演奏を小高駅にて行った。

小高という街への印象はとてもクリーンだった。天気が良くて悪くてもこの街の空気はさほど変わらない気がしていました。都会での流行やライフスタイルというものがないように見受けられ、そこで会う人と人の生命だけが感じられました。

人の性格を街が形成する部分があると思います。そういう意味では訪れたことのない街であり感じたことのない平然さがありました。街の人も、開けているわけでも閉じているわけでもないし、開けているところもあれば、閉じているところもあるような感じでしょうか。

私は滞在している間は、双葉屋旅館、小高教会、浮舟文化会館を制作する場所としてほ

ぼ毎日そこで歌っていました。たまに、アーティストソーターの方や旅館の人と話をする程度でした。

僕の場合、曲が出来上がらなければ鬱屈な状態が続いてしまう。そしてそれを抜け出そうと時間に追われながら焦りながら毎日眠りにつくまで制作を続けてしまう。人と会ってもどこか上の空になり、他人に興味を持つ余裕さえなくなってしまいます。そんな毎日でした。

東京は便利だし、紛らわすものがたくさんあるから保てているのかもと、東京を恋しく思いました。小高では、そうした鬱屈な気分で制作を続けましたが、何日目かの夜には自分の引き出しをガンガンとこじ開けようとし、

とても嫌で苦しい思いをすることもありました。そこから何も生み出せないことにも気付きました。

ただ、今の僕にとってはその体験が小高で一番価値あるものだったと思っています。なんとか完成した曲を小高駅で歌うことができ僕はとても良かったと思っています。



アプリケ「PayaPaya」



小高教会にて「乗客の二人」





「御粧し～千年の色を纏う～」(会場：MUROHARA SURFBOARD PRODUCTION 小高交流センター内)／2022年10月12日～16日

## Artist



篠塚聖哉氏  
Seiya Shinotsuka

熊本県生まれ。多摩美術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業。故郷の原風景をイメージの源泉にして、風景・石・木などをモチーフとした半抽象的な絵画を描いている。主な展覧会に「MOTアニュアル2006 No Border『日本画』から/『日本画』へ」(東京都現代美術館、2006)、「ピクニックあるいは回遊」(熊本市現代美術館、2008)、「草原」(つなぎ美術館、2014)などがある。

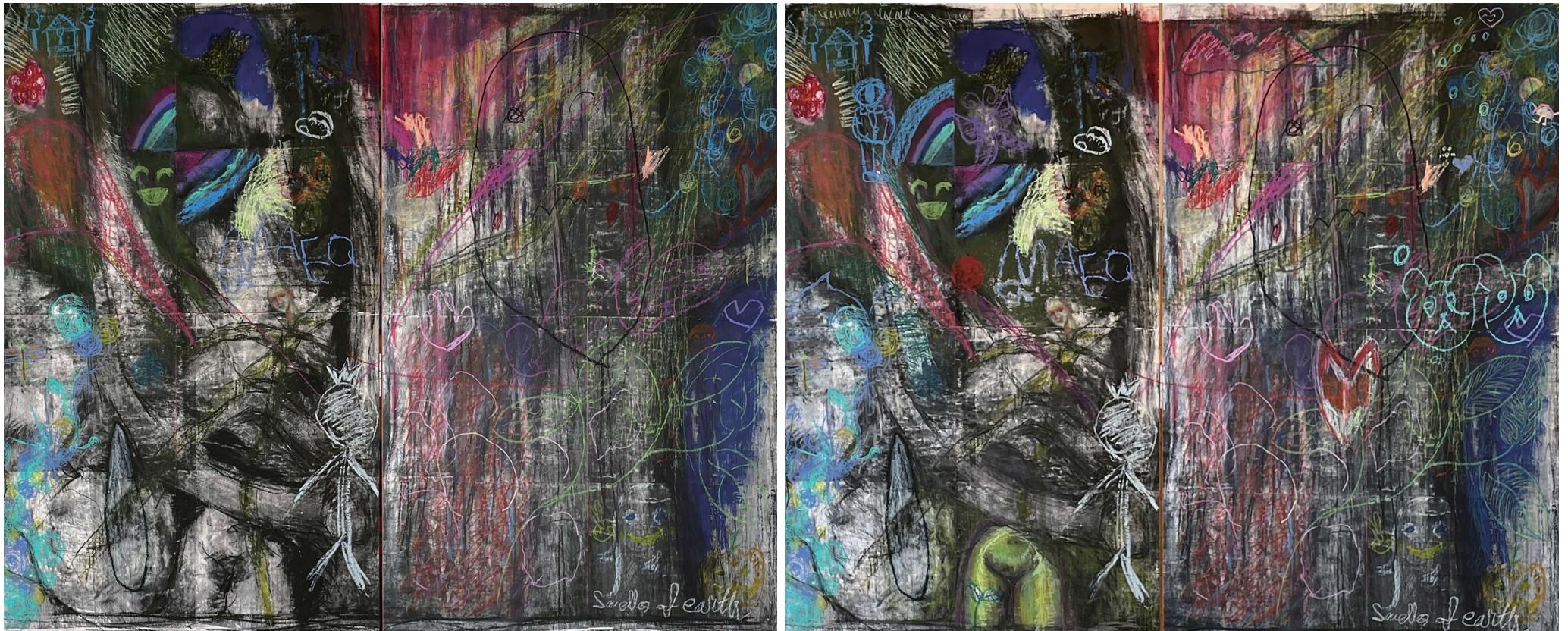
成果発表として福島県指定天然記念物の大悲山の大杉を題材に、私がモノクロで描いた上に地域の皆さんや仕事・観光で小高を訪れた方達が、オイルパステルを使って好きな色で自由に描いてもらう参加型ワークショップを開催しました。それは先生と生徒の関係性で物を完成させることが目的ではなく、参加者同士や参加者とアーティストの間で何かしらの気付きを生み出せないかという試みでした。

タイトルは「御粧し～千年の色を纏う～」とつけました。「御粧し」は「おめかし」と読みます。樹齢千年と推定されている大杉を色で御粧ししてくれたらという想いでつけました。

虹や木漏れ日を描く方、リアルな表情をした顔を描く方、大好きなアイドルのメンバーカラーを塗る方、描くのをためらっていたサーフィンが大好きな男の子は好きなカラーリングのサーフボードを描いてくれました。いちばん思い切りが良かった女の子は大きな顔や手のトレースで自己表現してくれました。就学前の男の子は、手のトレースをしたお姉ちゃんの真似をしながら描いた丸が絶品でした。アートに詳しい方とは日本のアートの話で盛り上がったり、youtuberの男性が撮影しながら描く姿も興味深かったです。スマホでやりとりしながらリモートで描く方もいました。い

ずれも一人で描くときには出会えない表現でとても刺激になりました。

この試みが何だったのか今は判断できません。ただ自分一人では描けない表現に出会えて、そして色んな気付きを得ることができて、とても良い時間を過ごせました。参加してくださった皆さんにとっても、何かしらの気付きになっていたらうれしく思います。開催・運営・参加してくださった全ての皆さんに感謝致します。ありがとうございました。





「木を植える、それから」(会場: aosubashi、双葉屋旅館「染井吉野」の間)／2022年10月19日・20日

## Artist



田中永峰良佑 氏

Ryosuke Nagamine Tanaka

1990年香川県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程美術研究科修了。社会の中のそれぞれの『私』という言葉を大切に、この世界で生きるそれぞれの人生の可能性を想っています。その場で体験したことを大切にしたいと考えており、映像や写真や言葉などを組み合わせて表現活動をしています。それから名前は、親の姓を二つとも名乗っています。



(今回の滞在作品の詳細はHPにてご覧いただけます)

初めて「アーティスト」という曖昧な肩書きの僕を暖かく受け入れていただき、小高を案内してもらったり制作の補助をしていただいたサポーターのみなさん、日々気さくに話しかけていただいた町のみなさん、本当にありがとうございました。

僕は小高について事前に調べているとき、小高出身の半谷清寿さんがかつて富岡の夜ノ森を始めとして、沢山の桜の木を植えたということに興味を持ちました。

なぜかというと、木は黙って立っているけど、それが一人の想いで植えられて、やがてたくさんの人が思い出を重ねる存在になっているという、とてもスケールの大きい出来事に、感動したからだと思います。小高川の美しい

桜並木にも、半谷さんが植えた木もあるようでした。それから、現在の小高で桜の木を植える「おだか千本桜プロジェクト」の会長佐藤宏光さんの存在を知り、「木」に込めた想いなどについてお会いしてお話をさせていただきました。「木を植えるのは簡単だ、それからのメンテナンスが本当に大変なんだ」という言葉が特にとても印象的で、植えてから、毎日草刈りをしたり追肥をしたり…その途方のない世話とそれでも未来を見据えている眼差しに、本当に心を打たれました。

そんな小高川の木達が何も語らないのをもどかしく思って、手を押し当ててみた時、込み上げるようにあたたかいのを感じて、それからハンコのインクを買ってきて紙の上から

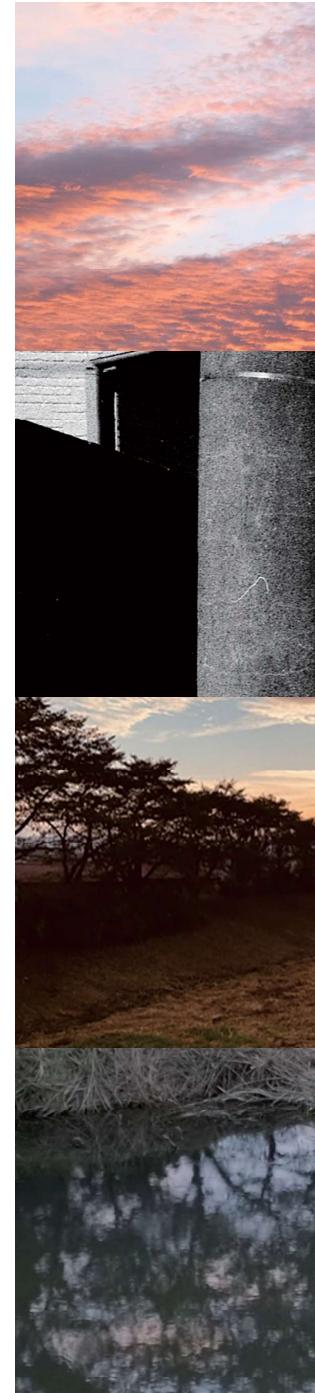
優しく押し当てる、想像を越えた豊かな表情が浮かび上がってきました。成果展では大きな幹を丸ごと一周して、その一本一本の流れてきた時間のようなものを感じようとする作品などを展示しました。

滞在中は、少しでも町の景色へと重なる人の想いに触れたいと感じていて、他にも数人の小高出身の方にもお話を伺わせていただきました。…その経験を2週間で一つの作品の形にするのは難しいと(或いは時間をかけても)感じましたが、佐藤さんが言っていた「木を植える、それから…」。花が咲いて、吹かれて、また咲き始め…季節の中で小高にまた訪れさせてもらい、その言葉を噛み締めて、向き合い続けていきたいと思っています。



Artist In Residence  
in Minamisoma  
Gunjo ODAKA

群青小高



おわりに

## Conclusion

今回のアーティストインレジデンスも新型コロナウイルス感染対策を講じながらの開催でした。コロナ禍の中、アートは不要不急の烙印を押され、その存在意義を問われることもあり、運営側として難しく感じたときもあります。しかし、アーティストやアートサポーターの皆様がSNS(instagramなど)を通じて、リサーチ・制作・展示の滞在風景を発信いただき、南相馬市小高区の魅力を広くPRできたと思います。

本事業にご参加されたアーティストの皆様、ご協力されたアートサポーターや地域住民の皆様に心より御礼申し上げます。また、成果展の会場をご提供いただいた小高伝道所の飯島信牧師、小高駅守の内藤千裕様・吉川彰浩様、MSPの室原真二様、双葉屋旅館の皆様、アオスバシの皆様、取材にご協力いただいた「おだか千本桜プロジェクト」の佐藤宏光様、そして特別サポーターとして事業にご協力いただいた佐々木行雄様にこの場をお借りし、深く感謝申し上げます。



〔群青小高 特設webサイト〕  
<https://air-minamisoma.jp/>

[instagram]

[https://www.instagram.com/gunjo\\_odaka/](https://www.instagram.com/gunjo_odaka/)



令和4年度 南相馬市文化芸術 ふれあい事業  
アーティストインレジデンスみなみそうま  
「群青小高」2022 図録

令和5年3月発行

編集・発行：南相馬市教育委員会

事務局：南相馬市教育委員会事務局 生涯学習課 文化振興係

〒975-8686

福島県南相馬市原町区本町二丁目27番地

TEL 0244-24-5249